

## 初代教会の力となった夫婦

新約聖書に出て来る信徒の中で、初代教会史上、もっとも活躍した夫婦は恐らくアキラとプリスキラ夫妻であろう。彼らは小アジアのポント生まれのユダヤ人で、ローマで商売を営んでいたが、クラウディウス帝のユダヤ人追放命令（紀元49年頃）のもとでローマを去ってギリシャの商業都市コリントに移住した。

この敬虔な夫婦は、恐らくローマにいるとき福音に触れてキリスト者となったと思われる。使徒パウロが第2次伝道旅行の際コリントにやって来たとき、アキラとプリスキラは、不思議な神の導きで使徒パウロに出会い、彼を自宅に受け入れて、その開拓伝道を助けた（使徒18：1～3）。

コリントにおけるパウロの伝道は一年半も続き、信者が続出し、偶像礼拝と不道徳で名高いこの一大商業都市にキリストの教会が誕生した。その後、アキラとプリスキラは使徒パウロに同行して小アジアの大都市エフェソに渡り、そこでもパウロに協力して伝道にあたった。

パウロが次の伝道地に去った後も、彼らはエフェソにとどまり、使徒が第3次伝道旅行でエフェソに来るまで、生まれて間もないエフェソの教会の信徒たちの指導にあたった。アレキサンドリア生まれの雄弁な伝道者アポロがエフェソに来た時、彼を家に迎え入れ、彼に「もっと正確に神の道を説明した」とルカは記している（使徒18：18, 19, 第1コリント16：19）。

それからしばらくして、彼らはローマに移住し、ローマ教会の中心人物として活躍した（ローマ16：3, 4）。他方、パウロはスペイン伝道の計画を立ててローマに向かうはずであったが、エルサレムでユダヤ教過激派によって逮捕されたのをきっかけにローマの官憲の手に渡され、長い拘留の後ローマに護送されて来た。それと前後して、アキラとプリスキラは、再びエフェソに戻ったと思われる。ローマの獄中から書いた弟子のテモテへの最後の手紙の中で、プリスキラとアキラとによろしく伝えて欲しい、と書いている。その時彼らはエフェソにいた（第2テモテ4：19）。

この夫婦は、使徒でも伝道者でも牧師でもなかった。しかし、日常の生活と職業を通して、キリストの教会の拡大とその恵みの福音の前進のために生涯を尽くして奉仕した人々であった。初代教会の形成においてこの夫婦の果たした役割は実に計り知れないものがある。

パウロは彼らを「わたしの同労者」と呼び、「彼らは、わたしの命を救うために、自分の首さえ差し出してくれたのである。彼らに対しては、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会も感謝している」と語って、キリストにある彼らの徳をたたえている（ローマ16：3, 4 口語訳）。

或る注解者がいみじくも指摘しているように、彼らは、職業的事情から絶えず転勤転居を余儀なくされている現代人のように、ローマ帝国内をアチコチと転居しながらも、しかし、決して腰掛け的なお客さん信者で終わることはなかった。行く先々で自分の家を解放し「家の教会」をつくり、或いは、それぞれの地域の既存の教会の忠実な信徒として、福音の前進と主の教会の進展のために積極的に奉仕していったのである。

今日においても教会は「アキラとプリスキラ」のような信徒を必要としている。私たちもそのような信徒になりたいと思う。